

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷五第

行發日一月十年六正大

論說

物價變動ノ原因(一)……………法學博士 河上肇

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(二)……………法學博士 田島錦治

所得稅ニ於ケル所得ノ意義(三)……………法學博士 神戸正雄

同盟罷工ト和解及仲裁制度(四)……………法學士 河田嗣郎

墨子ノ經濟思想(五)……………法學士 小島祐馬

割地ト村落制トノ關係……………法學士 牧野信之助

現代の保險ノ成立(三)……………法學士 小島昌太郎

時事問題

米國ノ參戰……………法學博士 戸田海市

物價調節ノ意義及效果……………法學士 河田嗣郎

雜錄

りすとノ經濟發達階段說……………法學士 本庄榮治郎

各國ニ於ケル物價騰貴ノ趨勢……………法學士 山本美越乃

戰後ノ大西洋定期航路……………法學士 小島昌太郎

朝鮮ノ關稅ニ就キテ……………法學博士 神戸正雄

露國ノ定期刊行物ニ就テ(三)……………文學士 高倉

しゆもらあ教授ノ史傳ニ就テ……………文學士 長壽吉

露國ノ定期刊行物ニ

就テ (三、卷)

高 倉 輝

露國ニ於テハ月刊雜誌ノ位置ハ甚ダ高イ。殆ド
日刊ノ新聞紙ト比ベテ遜色ガ無イト言ツテ差支
ガ無イ位デアアル。ソシテソノ數モ亦非常ニ多イ。
隨ツテソノ勢力ハ全クアナドル可カラザルモノ

ガアル。何ウ言フワケデソソナニ月刊雜誌ガ發達シタカト言フト、一ニ檢閱官ノ手心ガソノ原因トナツテ居ルンデアル。在來ノ檢閱官ノ方針デハ浩瀚ナ大出版物ヨリハ一般ニ廣ク讀マレル通俗的ノ出版物ノ方ヲ遙カニ嚴格ニ取リシマルト言フト同ジ意味デ、日刊ノ新聞紙ニ比ベルト月刊雜誌ノ方ハ非常ニ取締ガ寛大ダツタノデアル。ソノ他ニ今一ツ月刊雜誌ヲシテ今日ノ地位ヲ占ムルニ至ラシメタ重要ナ原因ガアル、ソレハ露西亞文學ノ發達ニ關シテ常ニ特別ノ關係ヲ續ケテ來タコトデアル。長編ト言ハズ短篇ト言ハズ、或ハ詩ト言ハズ戯曲ト言ハズ、單行本トナルニ先立ツテソノ第一ニ發表セラレル所ハ必ず月刊雜誌ノ誌上デアアル。ソノ點ハ日本ノ現狀ニ酷似シテ居ル。例ヘバ所謂三大家ノだすたいえふすきい、とるすとい、つるげえにぬふナドノアノ非常ニ長イ作品デモ、ちええほふヤビるきいノ短篇デモ、又ハめれじゆこふすきい、ばりもんと、ぶりゆそふ等ノ詩作ニ至ルマデ總テ月刊雜誌ノ誌上デ發表セラレタノデアアル。現

今ノ流行兒デアルちりこふヤらざれふすきいヤぶるおくヤくすみんノ作品モ總テ同様デアアル。カウ言フ風ニ月刊雜誌ガ文壇ノ鍵ヲ握ツテ居ル點ガ、英佛獨特ニ獨逸ノ狀態ト異ツテ居テ日本ノ現今ニソノ儘デアアル。唯ダ一ツ日本ト異ル所ハ雜誌ト作者トノ關係ガ大略定ツテ居ルコトデアアル。日本ノ様ニ一人ノ作家ガドノ雜誌ヘモ書クト言フコトハ先ツナイ。從ツテ編輯者ノ第一ニ必要トスル所ハ自分ノ雜誌ニ卓レタ作家ヲ集メル手腕ニアル。雜誌ノ成功不成功ハ一ニ此ノ點ニカカルト言ハレテ居ルノデアアル。

カウ言フワケデアアルカラ、露西亞ノ雜誌デハ文藝ノ作品ガ最も重要ナ部分ヲナシテ居ル。日本ノ雜誌デモ「太陽」ヤ「中央公論」ノ四期ノ倍大號デハ文藝附録ガ中心トナツテ居ル様デアアルガ、露西亞ノ雜誌デハ普通號ガ常ニサウナノデアアル。

露西亞ノ月刊雜誌ハ其ノ體裁ニ於テ西歐ノ諸雜誌ト甚シク其ノ趣キヲ異ニシテ居ル。例ヘバ「めるきゆうる・メル・フランス」(Mercure de France)

トカ「隔週評論」(Fortnightly Review)トカ「ブックマン」(Bookman)ナドト言フ英佛ノ雜誌ト比ベテ見ルト、其ノ内容ニモ外形ニモ大變ナ相違ガアル。第一ニ其ノ頁數ガ非常ニ多イ。普通號デモ大體先ヅ四百頁乃至八百頁位ハ有ルノデアアル。ソシテ其ノ卷頭ノ大半ヲ占領スルノガ文藝ノ作品デアアル。日本ノ「中央公論」ヤ「太陽」デハ小説ガ主デアアルガ、露西亞ノ雜誌デハ詩モ甚ダ多イ。ソノ多クハ創作デアアルガ翻譯モ少クナイ。文藝欄ノ次ハ大體寄書家ノ評論デアアル。ソノ主題ハ政治經濟科學教育文藝ソノ他百般ノ事項ニ亘ツテ居ル。ソノ次ハ内政外交及ビ國內ノ出來事ニ關スル報告及ビ批評デアアル。ソシテ最後ニ新刊書籍ノ批評ガ有ルト言フノガ普通ノ月刊雜誌ノ體裁デアアル。寫眞ヤ挿繪ノアルノハ極ク稀デアアル。總體ニソノ編輯ブリハ甚ダ進ンデ居テ、一般民衆ノ教育及ビ輿論ノ指導ト言フ點デハムシロ日刊新聞ノ上ニ在ル。日刊新聞及ビ週刊新聞ノ發達ニ於テ遙カニ西歐ノ諸國ニオクレテ居ル露西亞ガ月刊ノ雜誌ニ於テ却ツテ西歐諸國ヲ

凌駕シテ居ル觀ガアルノハ寧ロ不思議デアアル。此ノ數年間事實日刊新聞紙ハ種々ノ點デ月刊雜誌ニ學ブ所ガ多カッタノデアアル。現存ノ露西亞ノ雜誌中一番歴史ノ古イノハ「ゐえすとにく・いえしるおびい」(歐洲通信)デアアル。約半世紀前ニ故すたしうりえゐつち氏ノ創刊スル所デ、「ゐえすとにく・いえすとにち」ト同ジク所謂六十年代ノ自由主義ノ繼承者デ氏ノ死後モソノ態度ハ長イ間變ラナカッタ。「ゐえすとにく・いえしるおびい」ノ第一ノ特色ハ、總テノ事柄ニ對シテ常ニ温和ナ漸進的ノ態度ニ出デテ、ソシテ徹頭徹尾高尚ナル趣味ノ唱道者デアアル點デアアル。ソノ貴族的デアクマデモ教養アル階級ノ指導者ヲ以テ任ジテ居ル所ハ、英國ノ故をつつ・だんどん氏ノ「あせえにあむ」ヲ除イテハ他ニチヨット見出ス事ガ出來ナイ。日本デハ先ヅ「太陽」ト言フ所デ有ラウ。ソノ寄書家ノ中ニハつるぎえねふモ居レバがんちやろおふモ居タ。殊ニつるぎえねふガ佛蘭西ヘ行ツテカラノ晩年ノ作品ハ殆ド全部此ノ「ゐ

えすつにく・いえうろおびい」ノ誌上デ發表セラレタノデアル。ソノ他有名ナ露西亞民族史ノ著者デアル所ノ歴史家そるよおふ及じかすたまろおふ、ソレカラ最モ完全ナ露國文學史ノ著者ぶいびん、有名ナ批評家かるえりん等ガソノ寄書家ノ中ニ數ヘラレル。

此ノ數年前ニ「ゐえすつにく・いえうろおびい」ハマきしむ・かわれふすきい教授ノ手ニ這入ツタ。氏ハ英佛ニハ隨分名ノ知レタ社會主義者デアル。今次ノ革命ニ於ケル氏ノ活躍ハ改メテ述ベルニハ及ブマイ。今「ゐえすつにく・いえうろおびい」ハ氏トソレカラ内政評論ノ編輯ヲシテ居ル所ノこんすたんちん・あるせにえふ氏ト二人デ主トシテヤツテ居ルノデアル。

露西亞ノ月刊雜誌ノ中デ最モ生彩ニ富ンデ居ルノ「ゐるすかあや・むいつする」(露西亞思潮)デアル。初メハもすくわノ發行デ千八百八十三年ノ創刊デアアル。創刊當時ハ折衷進歩派ノ機關デ、ソノ寄書家ノ中ニハ令名アル名士ヲ集メテ居タニ係ハラズ重キヲ成ヌニ至ラナカッタ。今日ノ

英氣ヲ發揮スルニ至ツタノハ千九百八年びよおとる・すつるうふえ氏ガ主筆トナツテカラノコトデアアル。氏ハソノ周圍ニ露國政治界ノ新思想ヲ集メルノニ全力ヲ擧ゲタ。「ゐるすかあや・むいつする」ガ一躍露西亞ノ雜誌界ヲ風靡スルニ至ツタノハ一ニソノ爲デアアル。すつるうふえ氏ハアル時ハ社會民主黨ノ黨員トモナツタ人デ、爲メニ千九百二年カラ千九百九年マデすつとがると又ハばりニ居テ自由憲政黨ノ機關紙デアアル所ノ「あすわばじゆぢええにえ」ノ編輯ヲヤツテ居タ。非常ニ博學多才ノ人デ、思想カラ言ツテモ兎ニ角獨自ノ點ヲ持ツテ居ル人デアアル。所ガ面白イコトハすつるうふえ氏ハ非常ニどぐまノ嫌ヒナ人デアアルニ係ハラズ氏ノソノ思想ナルモノガ非常ニどぐまちつくナモノデアアルコトデアアル。氏ハ此ノ數年間所謂「いんちえれげんついあ」ノ露國中流ノ生活ニ對シテ最モ猛烈ナル攻撃ヲ加ヘテ來タ。所ガソノ論說ノ中ニ「いんちえれげんついあ」ノ本家本元デアアル所ノちええほふノ作品ヲ例ニ引イタ所カラ端ナクモ文藝家ノ

方カラ猛烈ナル反對ヲ受ケルニ至ツタ。丁度同ジ頃ニ氏一流ノ愛國主義カラ革命ノ運動ニ加ツタ氏ノ批評ガ元トナツテ各方面カラ盛ンニ攻撃ヲ受ケタコトガアル。トニ角すつるうふえ氏ハヨク問題ヲ起ス人デ、シカモンノ原因ハ常ニ氏ノどぐまちつくナ態度ニ基イテ居ル。「るすかあや・むいつする」ガ常ニ生氣ヲ帯ビテ居ルノハ氏ノ此ヲ言フ態度ニ負フ所ガ多イ。氏ノカウ言フ問題ニ關シテ時々ニ「るすかあや・むいつする」ノ紙上ニ發表シタ論文ハ「ばどりおちか」(Politica) ト言フ表題デ一冊ニマトメラレテアル。「いんちえれげんついい」ヲ攻撃シタ有名ナ論文ハ「るえひ」(道しるべ)ト言フ論集ノ中ニ這入ツテ居ル。「るすかあや・むいつする」ハ今もすくわカラ移サレテべちえるふるくデ發行セラレテ居ルガ、すつるうふえ氏ハ氏ノ周圍ニ同型ノ記者ヲ多ク集メテ常ニ何かシラノ問題ヲ作ツテ居ル。

露西亞ノ月刊雜誌ノ中デコレマデ最モ廣ク讀マレテ居タノハ「るすこおえ・ばがあつすつをお」

(露國富源) デアル。此ノ雜誌ハ「あぐらあるぬい・そついありすと」ト呼バレル社會黨ノ機關雜誌デ千八百七十六年ノ創刊デアル。在來ノ主筆中最モ有名ナノハにこらす・みはいろふすきい氏デ、本誌ガ著シクンノ賣行ヲ増シタノハ氏ガ主筆ヲシテ居タ時代デアル。氏ハ千八百九十五年カラ千九百四年ノ死ノ際マデ毎號缺カサズニ社説ヲ書イテ來タ。ソノ題目ノ至ラザルナク範圍ノ廣イ點ハ當時ノ評判デ有ツタ。シカシ「るすこおえ・ばがあつすつをお」ガ廣ク讀マレル第一ノ原因ハソノ農民ニ對シテ常ニ多大ノ同情ヲ持ツテ居ル點デ、「るすこおえ・ばがあつすつをお」ト言フ雜誌ノ名前モソノ意味ヲ示シテ居ル。ソノ編輯局ニハ第二議會ノ際ニほふりいすと・そついありすとノ領袖トシテ名聲ヲ擧ゲタみやこおちん氏及ビびえしえほおのふ氏、ソレカラ短篇作家トシテ日本ニモ知ラレテ居ルこるりえんこ氏ガ居ル。

社會黨ノ機關雜誌ガ今一ツアル。ソレハ「そろれめんぬい・みいる」(現代ノ世界) デアル。元ハ

「みいる・ぼおじい」(神ノ世界)ト言ツタガ途中
デ改題シタ。コレハあぐらあるぬい・そついあ
りすとニ相對スルまるくす主義者即チ社會民
主黨ノ機關デアル。此ノ雜誌ノ成功シタノハ前
ノ持主デアルだぬどおわ夫人ノ開放主義ニ因イ
テ居ル。夫人ノ良人だぬどおふ氏は有名ナわい
おりん・せるノ音樂家デ、且ツ聖樂ヲ以テ有名
ナるうびんしゆたいんノ非常ニ親密ナ友人トシ
テ知ラレテ居ル。夫人ハ雜誌ヲ在ラユル寄稿家
ノ前ニ開放シタ。ソレガ此ノ雜誌ヲシテ他ノ雜
誌ニハ見ルコトヲ得ザル一ノ特徴ヲ作ラシメ
タ。みりゆこふ氏ノ有名ナ論文「露國文明史ノ
研究」ハ初メ此ノ「そろれめんぬい・みいる」ノ紙
上ニ掲ゲラレタノデアル。

以上ハ極ク有名ナモノノミヲ擧ゲタノデアルガ
此ノ他ニモ有力ナモノハ決シテ少クナイ。例ヘ
バ同ジ社會黨ノ雜誌ニシテモ「るすこおえ・はが
あつすつをお」ヤ「そろれめんぬい・みいる」ナド
ヨリモアトカラ生レタ「そろれめんぬい」(近代
人)ガ今日デハ却ツテ前二者ヲ壓倒シサウナ勢

デアル。ソノ他各専門ニ亘ル定期刊行物ハ無論
限リナク多イ。マタ極ク一方ニ偏シタ雜誌デ有
ツテモめれじゆてふすきい夫妻ノヤツテ居タ
「のおうい・ふうち」(新シキ道)ノ様ニ非常ニ有
名デ何人ニモ讀マレタモノモアル。或ハマタ體
裁ハ「ぬえすつにく・いえうろおびい」ヤ「るすか
あや・むいつする」ナドト同ジデアリ乍ラシカ
モ特別ノ寄書家ト特別ノ愛讀者トヲ持つテ居ル
「せえぬえぬい・ぬえすつにく」(北方通信)ノ
様ナノモアル。最近ニハ記事ノ通俗的ナ點ト
定價ノ低廉トガ成功シテ露國雜誌界ニ新機軸ヲ
出シタ「じいすに・どりやあ・ふしよお」(各人生
活)ノ様ナモノガアル。殊ニ今次ノ革命ト共ニ
生レタ雜誌ハ一時的デハ有ラウガ實ニ夥シイ。
大變粗雜ナ梗概ダケニ止ツタガ、何レ近日露西
亞ノ定期刊行物ノ歴史ヲ書ク積リデアルカラ、
詳細ハソノ時ニユヅツテ、露西亞ノ新聞雜誌ニ
直接目ヲ透サウトスル人々ノ手引草マデニ極ク
目ボシイモノダケノ簡單ナ紹介ニ止メラ筆ヲ擱
クコトトスル。但シ右ハ主トシテ今次ノ革命以

雜錄 しゆもらあ教授ノ史傳ニ就テ

前ノ狀態デアルコトヲ記憶シテ頂キタイ。終ニ
此稿ヲナスニ就イテわしりいふ・でむちえんこ、
及ビるりあむす諸氏ニ負フ所ガ多イ。(完)